

R

E

A

S

O

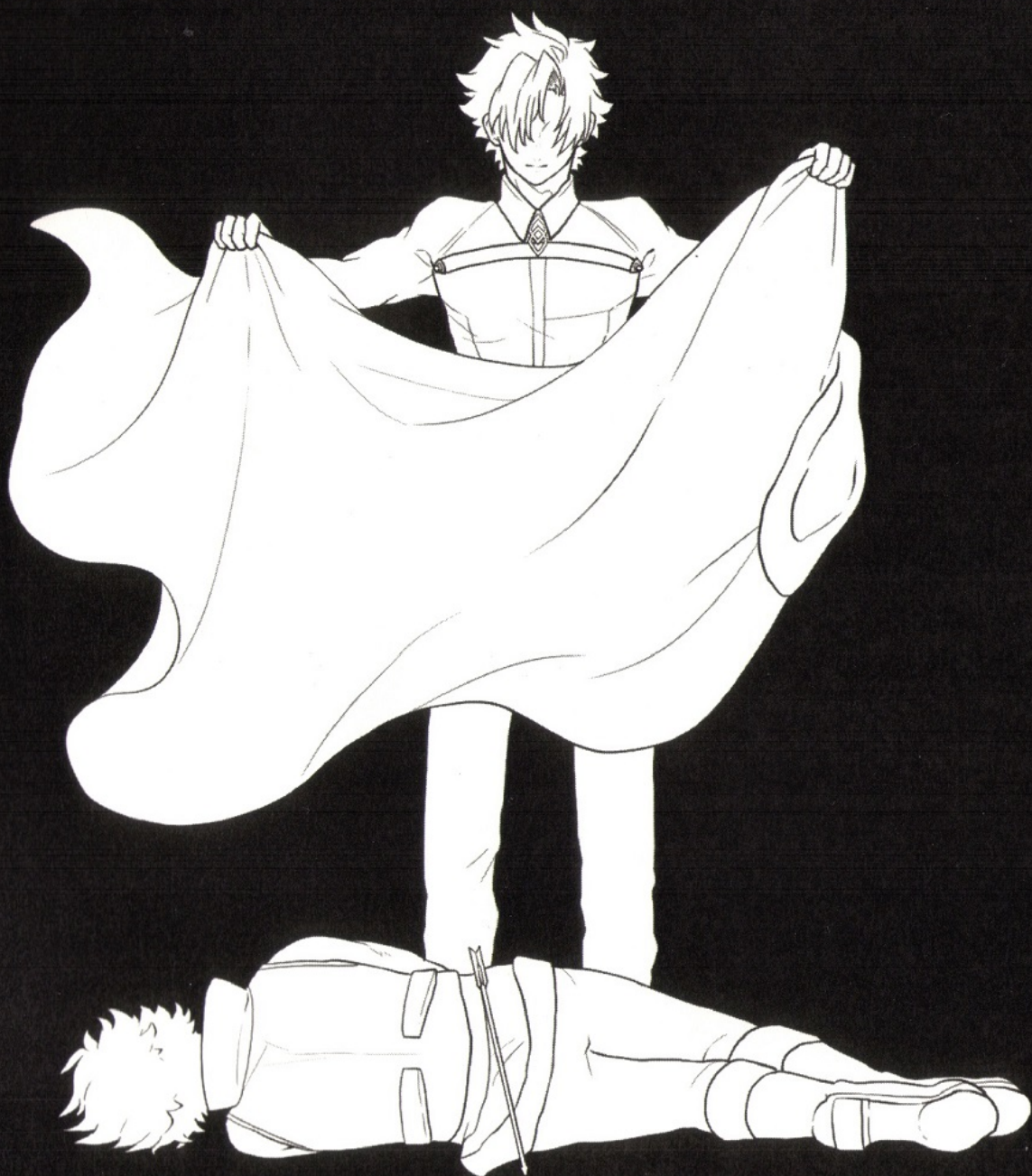
N



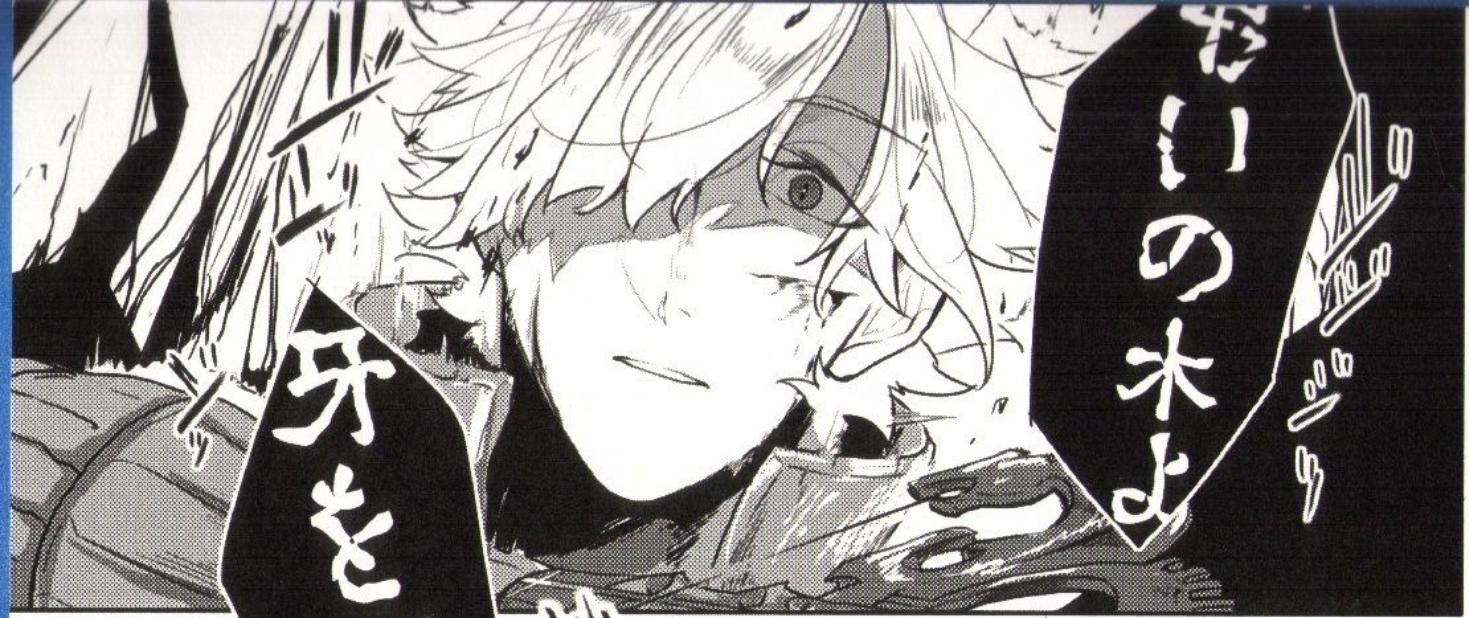


「オレが最強のヒーローだ、」

「オレが最強のヒーローだ、」







おいの木よ

牙を研げ



祈り
の
一
瞬









こいつあ
ヤバいな

マスター

すぐ帰還の
レイシフトの準備を

坊主、まだ
回復使える？

問題ない、隣で
歩きながらでも
してやる

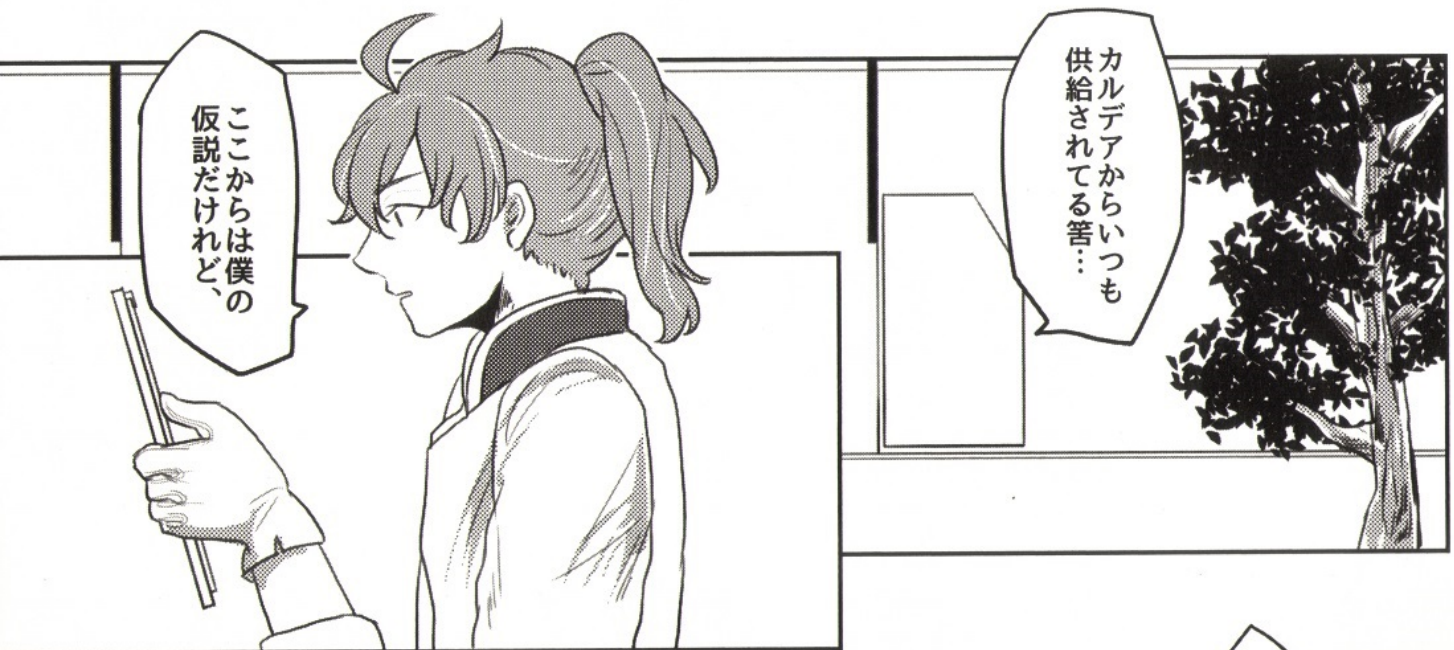
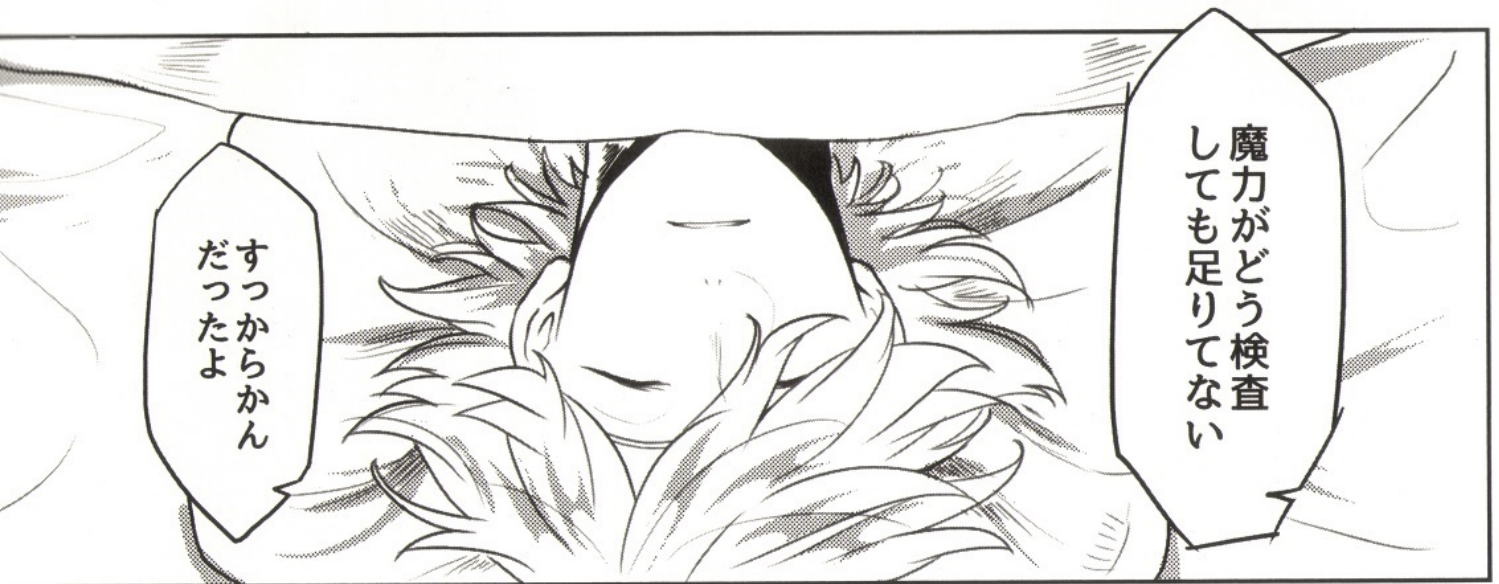
それより
そいつはもしや
容態はかなり不安定か？

分かってんなら
坊主もほら手伝って

マスター
行けます？

う、うん！







早く戻ってきて
くれて良かったよ



消滅する
ところだった

もう少しで
本当に彼は



いや、僕にはこれしか
できなくてごめんね

ありがとう
ロマン

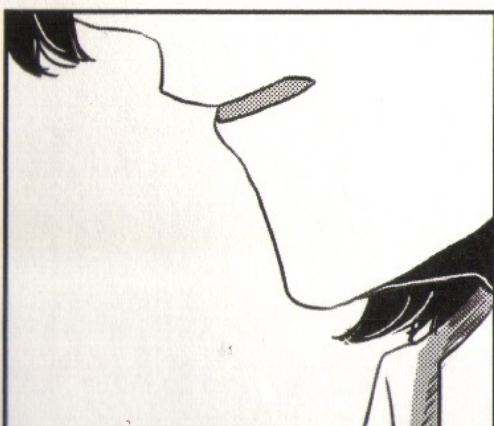
今は彼、落ち着いて
いるみたいで良かった

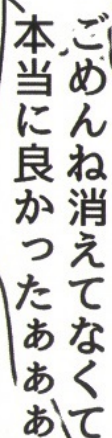
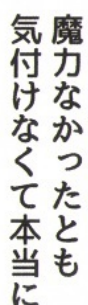
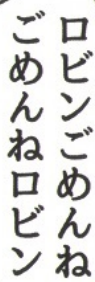
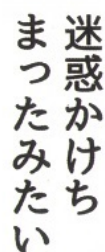
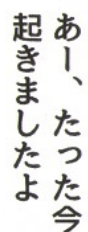
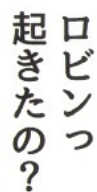


…そっか



僕は戻るけど、
彼の魔力はまだ足りて
いないから、無理は
させちゃダメだよ







あ~~~~~
マスターちよつと

オレの話
聞いてました？



え？

『ストップ』

『その先は
言うな』



オレは、

謝るなど
言っただんです



采配を間違えた

さっきの戦闘で
そう思ったでしょう

確かに全員
やられかけて、けど
オレの宝具を放った

ミスをアンタ自身
補えたからこうやって
帰って来れたんでしょう？

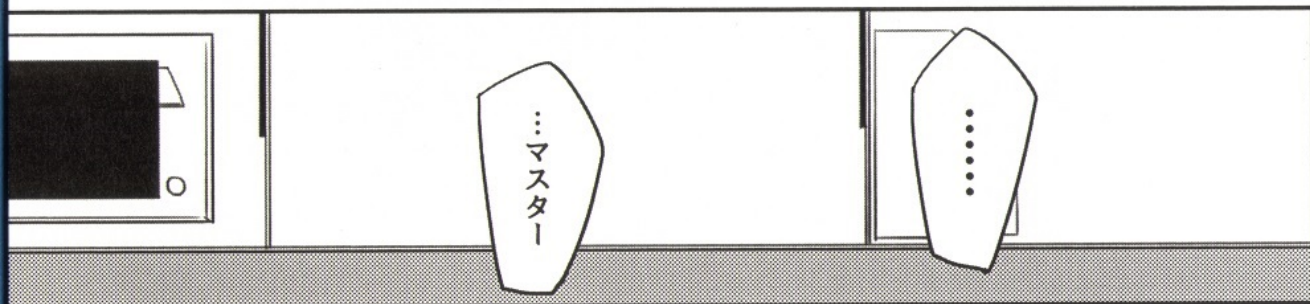
なら、謝る必要はない
オレが撃って良かったんだ

違う



ロビンが消えちゃう
かと思ってそれで…

俺は、



…マスター

…



本気で
言ってますか

それは

アンタは
ここに生きる

たった一人の
マスターだ

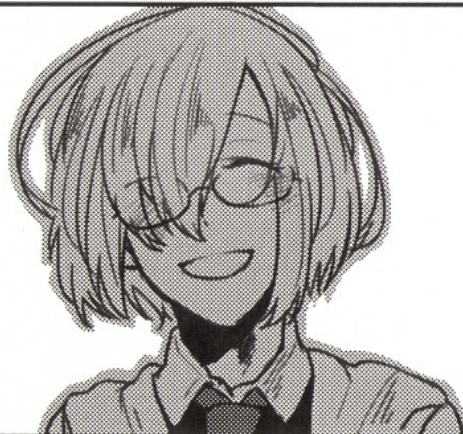


たとえ、
オレが消えても

たとえ、
オレを見捨てる
しなくても

アンタはアンタを
支えてくれる
人たちが待つ

カルデアへ
此地
帰ってくるんです



…それは、

俺が

それは俺の
在り方が

ロビンに
似ているから？



…あのな
マスター

オレはアンタ程
優しい奴じゃない

まず守っている
もののスケールが
違いすぎる

オレは村を
守れりやあ
それで良かったんだ

あと

アンタは、
一人であつても
独りではないでしょう

たった独りで
守る戦いの結末を

オレはもう
知っている

だからオレは、アンタを
此処に必ず戻らせると

そう決めたんだ

が、

まあ知ってる
でしょマスターも

此処の
大所帯つぷり

賑やかなのなんのつて
むしろ騒がしい奴いるし

余つ程の事が無い限り
マスターが一人になるなんて
今は有り得んでしょう

だから



安心してオレは、
消える覚悟が出来る

どうして



どうして、

ロビンはそこまで
してくれるの



…何ででしょうね

引き止めてすみません
オレまだ本調子じゃ
ないんで休みますけど…

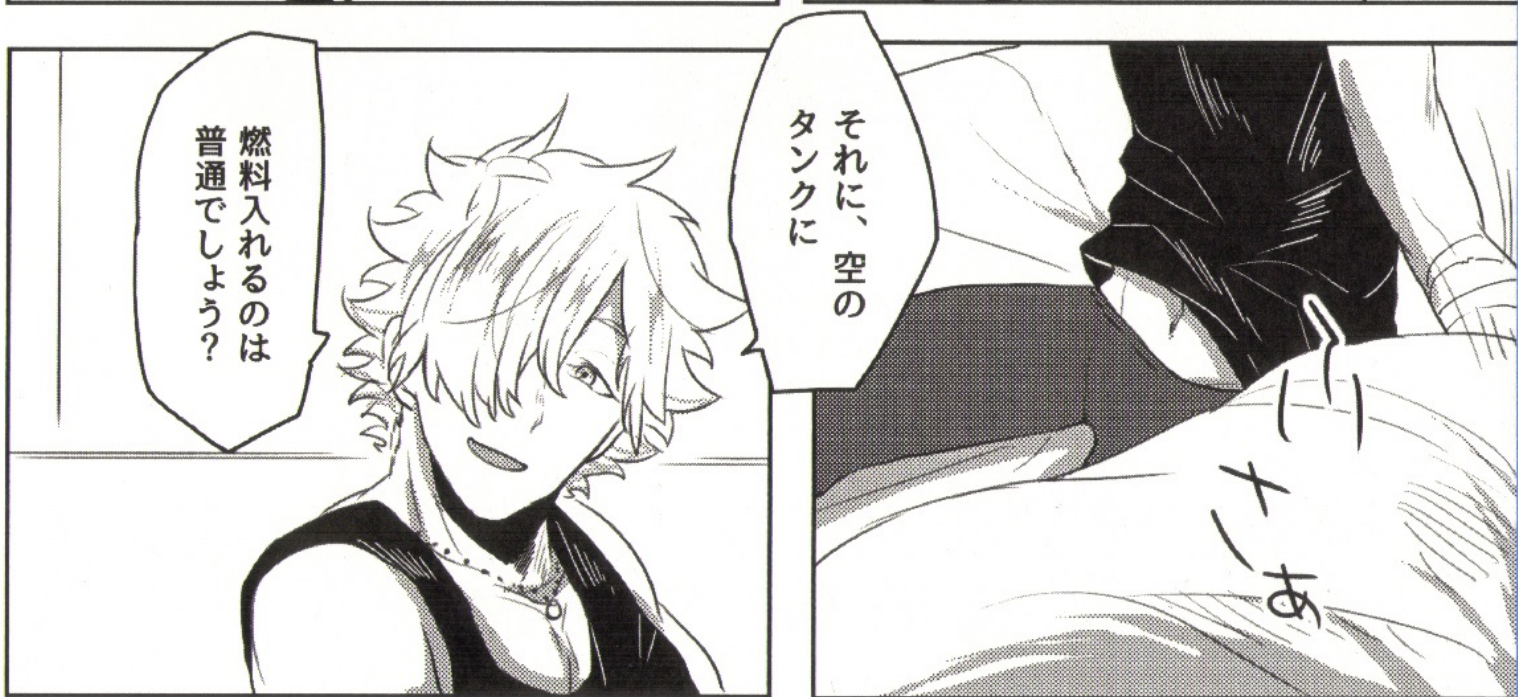
えっあつ
いや、ごめん！

オレはいいんで、
マスターはもう
自室で休んでくだせえ

……

マスター？

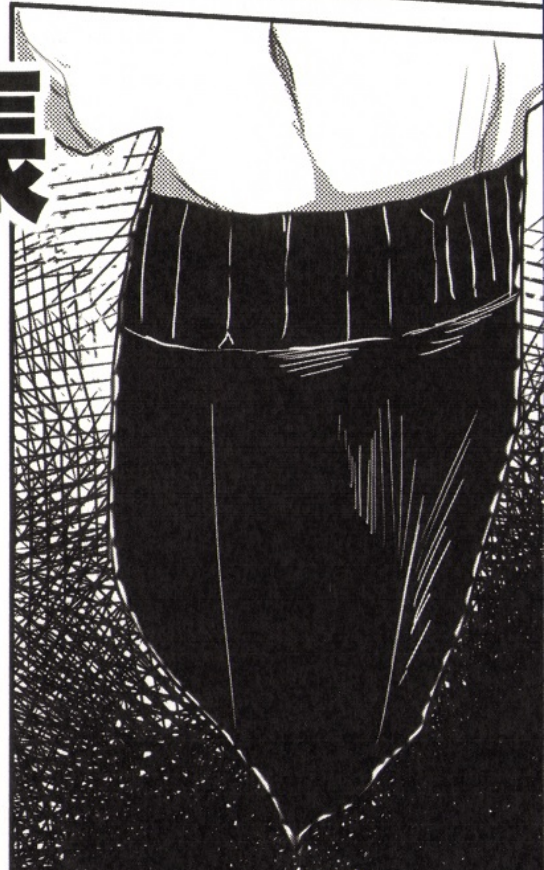
…俺、さっき言ったよね？
ロビンが魔力枯渇で心配だって







ちよつまっ
準備って







ヤバイ…
どうしょ

魔力供給してる…
あつ…

というかロビン
う、上手くない…?



あ、なんか
結構ふわふわ…



意識流れそう…
頭触っていいかな



へ！あ！
ごめん！！

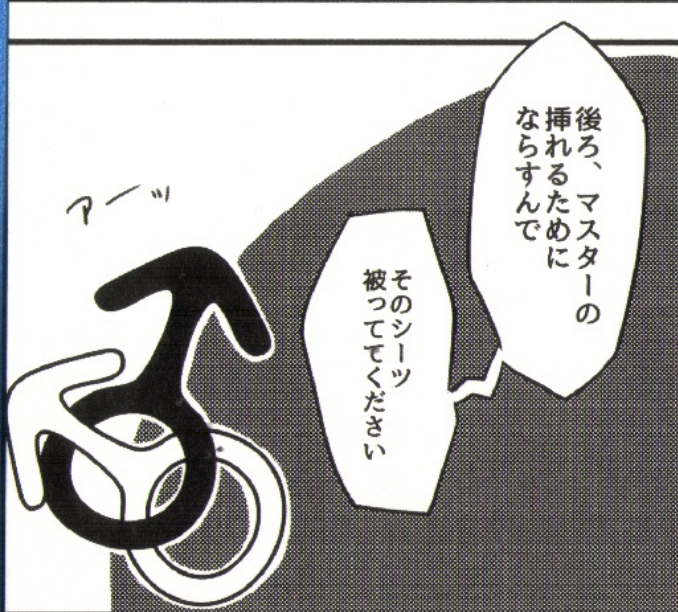
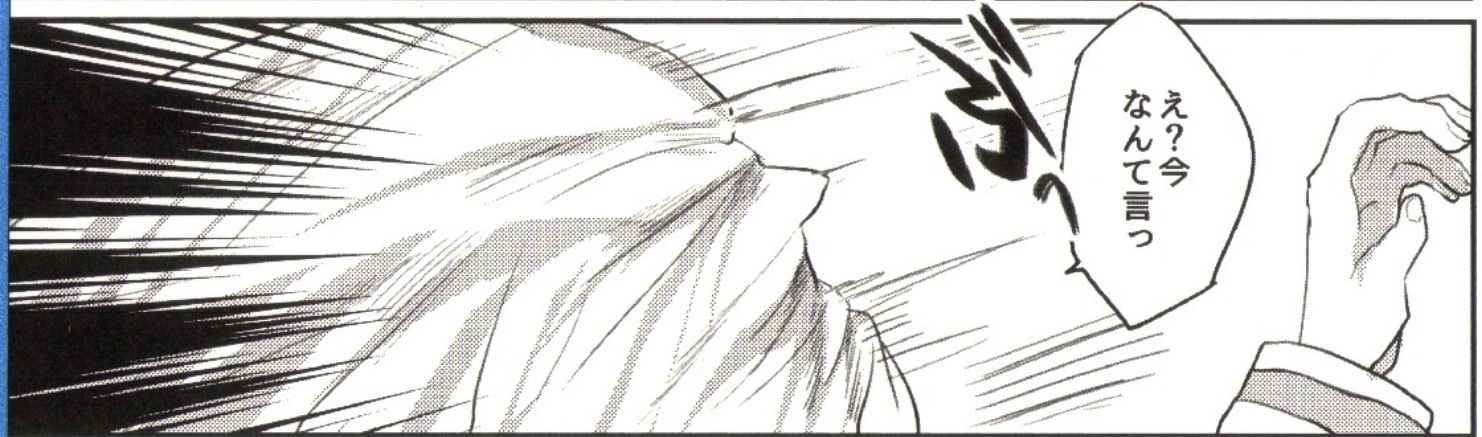
あ、えっと、その
大丈夫ですから

ほ、ほんと？

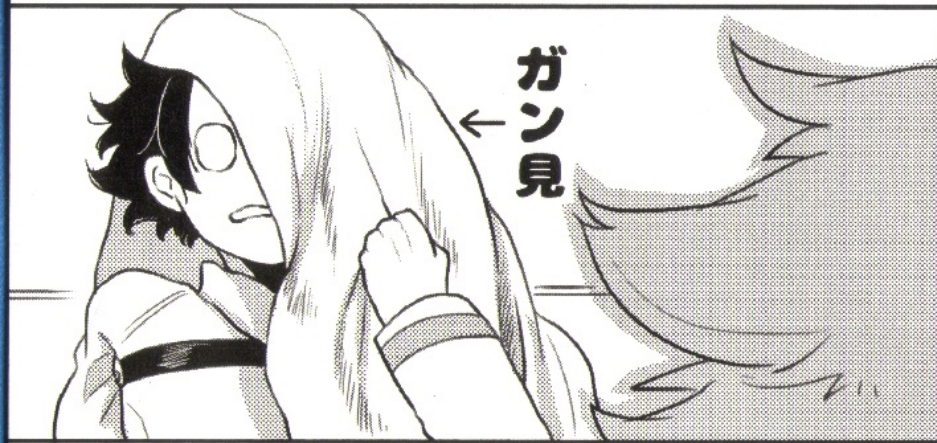
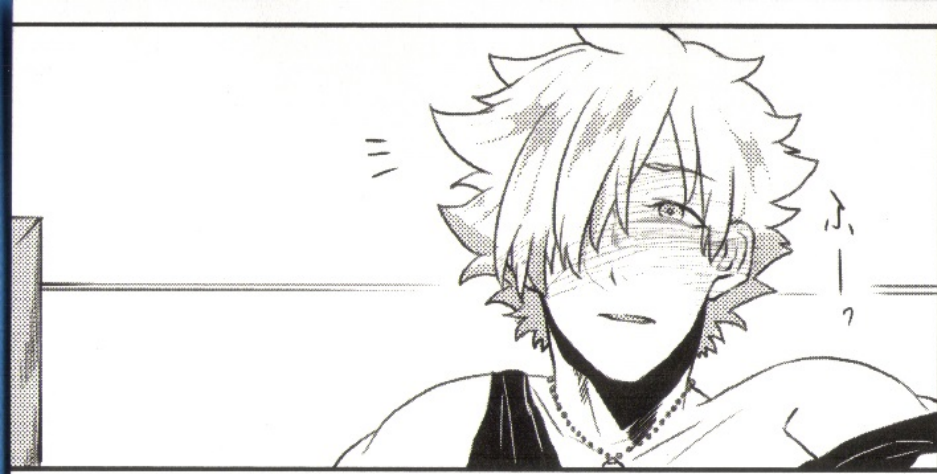
その、首にびっくり
しただけなんで

いつも首隠してる
から弱いのかな…

本日二度目













ほーら、どんと
こいこい



な、中にだし、
出している？





伝われ

伝われ

守りたいものに
君も入っているんだと

けど

分かってる、
分かっているんだ

それは無理だと、
決して交わらない線なんだと

いつか決断を迫られる、
俺が君を、消してしまう日が

犠牲のない戦いなんてない
死者のない戦いではない

無理がくる、限界がくる
其の時まで消えてしまうのは、
彼らなのだ

聞いているかい！

昨日の今日だからね

ごめん、まだ
疲れてたよね

もうミーティング
終わったよ

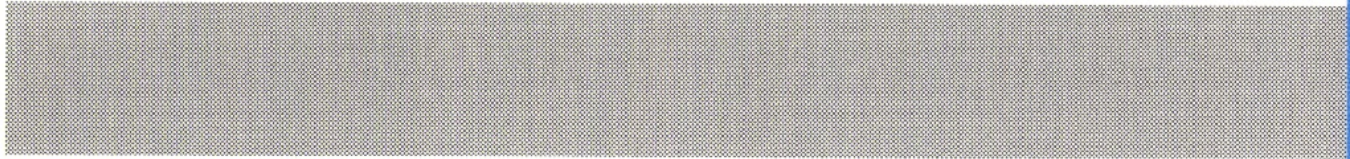
うつすみません…

ボーンとした…

とりあえず今日は
何もないから



…ロビンの様子
見に行くか



全く君は

あまりマスターに
心配をかけてやるな



ミニオの
部屋なん
すげえ

はいはいっていうか
オタク何しにきてんの



簡単な話だ

医者にかかる程の怪我でも
なければ、医者にどうこう
出来る治療もない

しかし動けないときた。
世話のかかる奴だが、適任者が
いないのならば同じ弓兵の私が
茶を淹れにきただけのこと

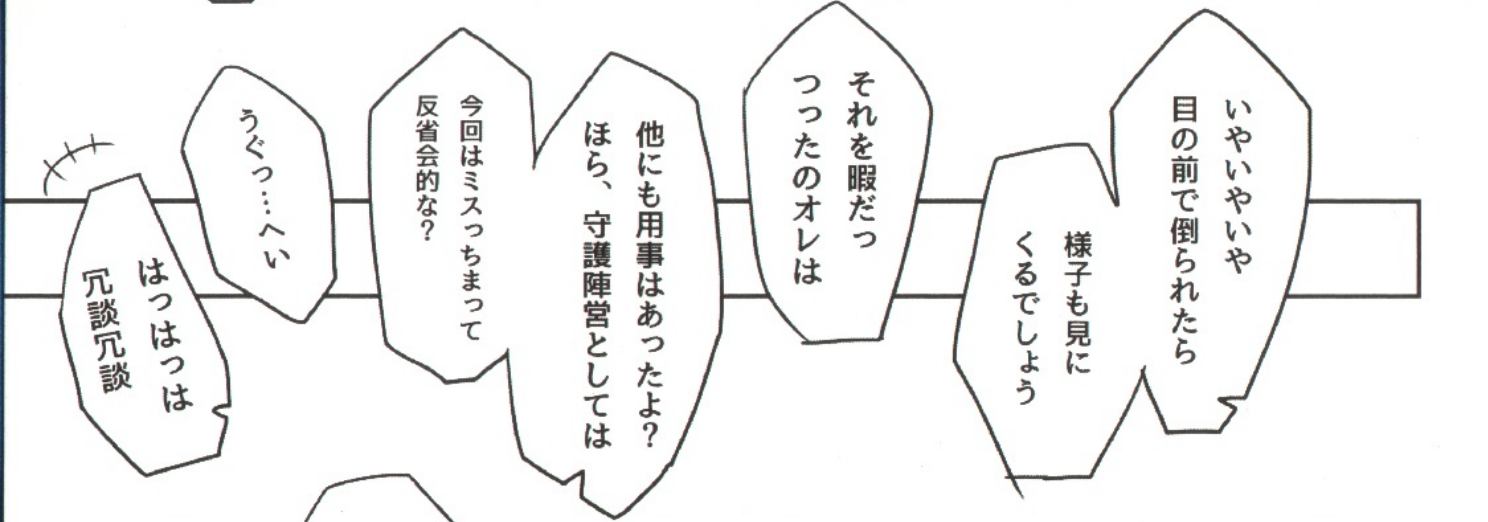
長えよ



あら、心配して
きてみたらまあ

大丈夫そうね

全員暇かよ



いやいやいや
目の前で倒られたら

様子も見に
くるでしょう

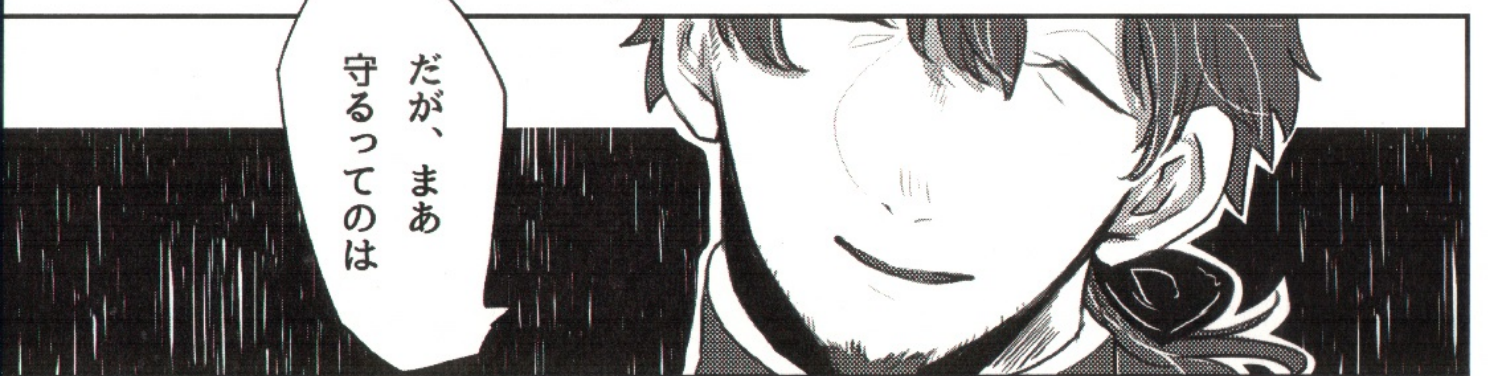
それを暇だっ
つたのオレは

他にも用事はあったよ？
ほら、守護陣営としては

今回はミスっちまって
反省会的な？

うぐっ…へい

はっはっは
冗談冗談



だが、まあ
守るってのは



そいつあ
そいつあ

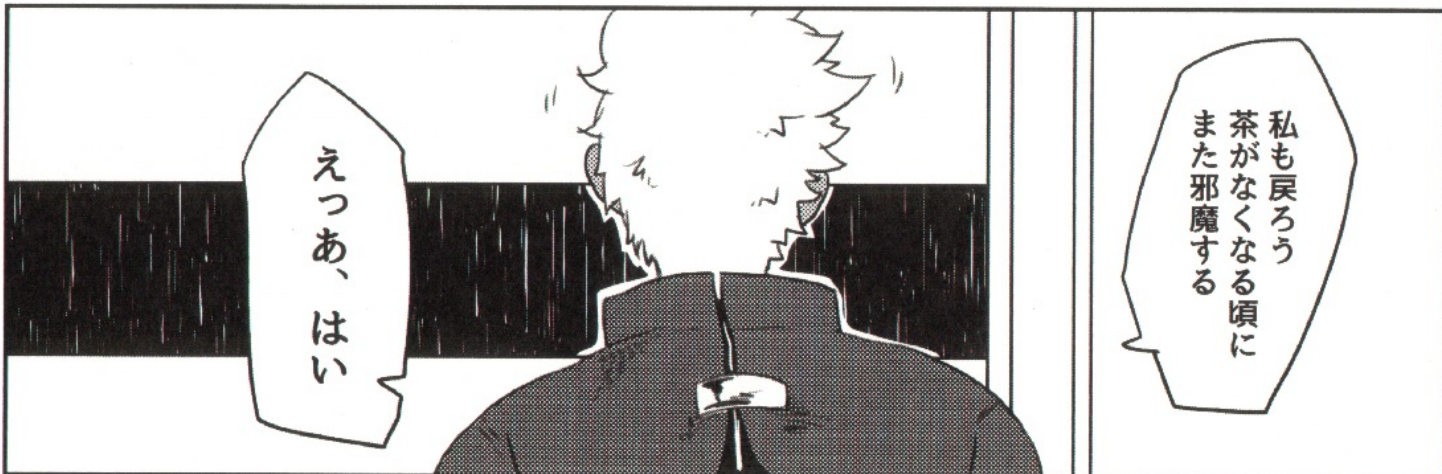
大変なこと
なんだろうよ



はいじゃまあ
大丈夫そうなので

戻りますわあ

えっあつちよ
おっさん



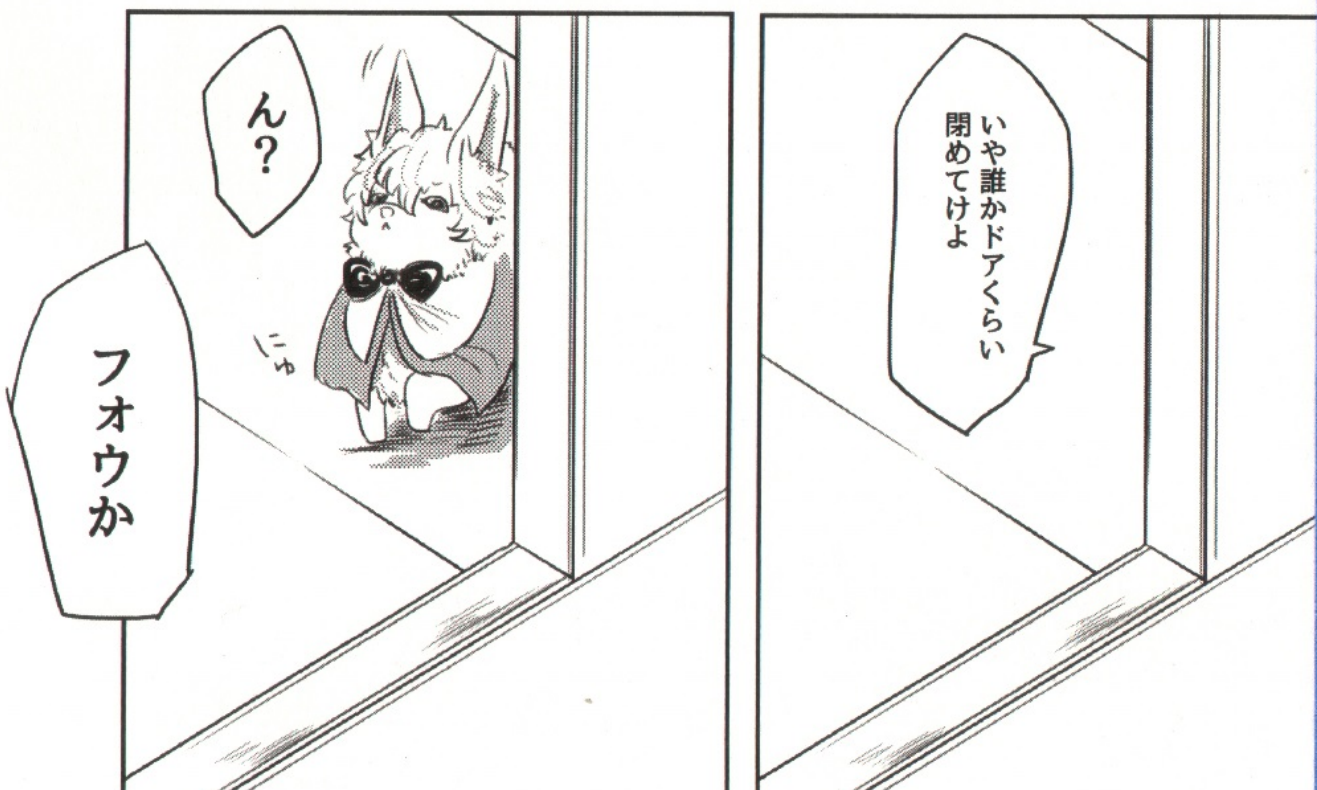
私も戻ろう
茶がなくなる頃に
また邪魔する

えっあ、はい



シ

ン

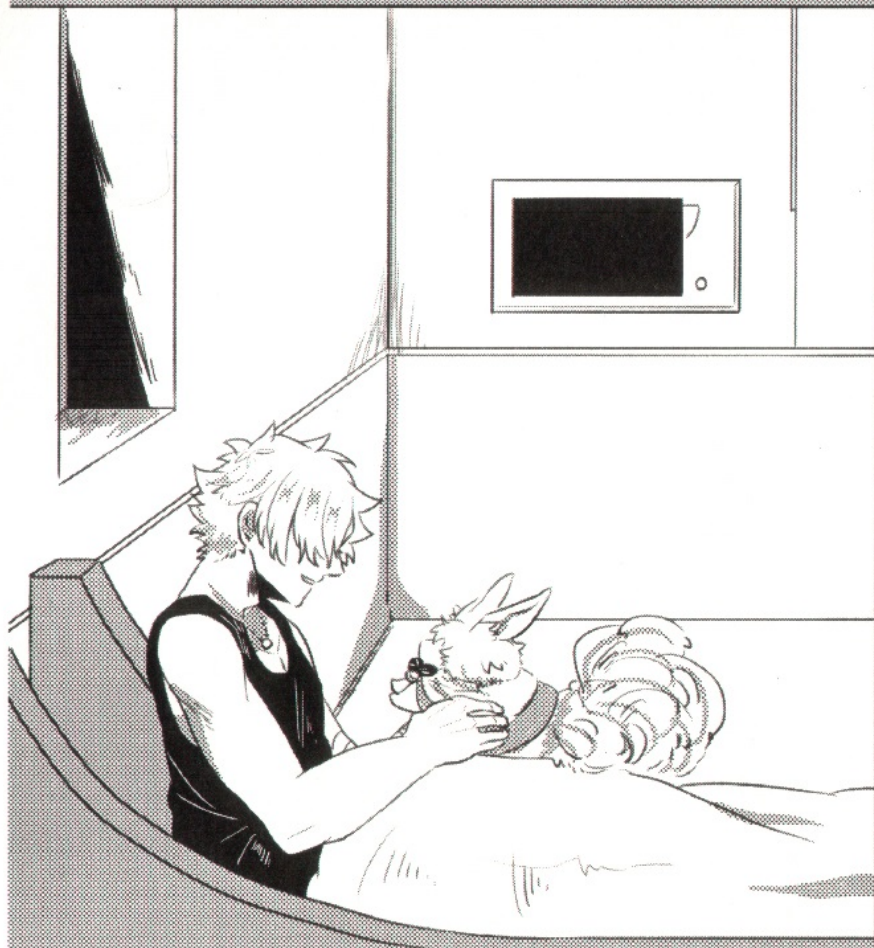


ん？

フオウか

いや誰かドアくらい
開けてけよ





それだけ
その一言で良かった
なんて言ったら、さ



マスターに笑われ
ちまうでしょう？

また、誰かに見捨てられたとしても、
たとえば、マスターに見捨てられたとしても、

オレがマスターを
見捨てることは

きっと、ない

後書き(5章バシ感想含み)

初めましての方もまたお会いしましたねという方も、この度はお読みいただきありがとうございます。今回はぐだロビです。死より生を尊重し、何かあたたかいものが残れば、それでいいロビンフード。既に死んだ自分より、今を生き重い荷を背負うマスターを影ながら守る森の狩人。時には毛布を、時には奇襲を。そしていつかは、無理をしすぎて消えてしまうかもしれない。「英霊はどうせ最後には消えるんだし」と原作では言っただけで自分の事は隅にポイしていたので、カルデアでもそのスタンスのままです。生前は父の最期を看取ってもらった、その義理だけで彼は村の願望の塊になった。彼にとって根底にあるのが正義感なので、本当、ちょっとしたことで、良かったんだなと思いました。だから、マスターを守る理由も、本当にちょっとしたことで、自分が消える事になっても守りそうだと、そう思った次第の「彼が無理をする理由と答え」のお話でした。

話は5章へうつりますが、ロビンが出て来てそれはそれは発狂しましたが、まず何を考えたかって、「どう彼は消えるのだろう」でした。まだ消えない、まだ消えない、そう思い続けながらとうとう最後までいました。途中、仲間が消えました。3人分全てを背負い逃げました。その後、彼は一度も弱音も後悔も吐きませんでした。悲しむエリちゃんを守りました。かっこいいなと思いました。正直、どこかで消えると思っていたので、最後までいたことにかなり驚きました。凄い…。かっこよかった…かっこよかったなあ…第二十六遊撃隊アンダーソン・コマドリ少尉。

次ページ！ごろりさんからゲストいただきました…！えろい！えろいですね尻とか口とか脚とか脚とか脚。脚。私が緑茶さんの脚が好きなのを知っておられての構図なのか分かりませんがとても美味しいですね！！え、えろ本だ！！

ごた"ロセ"本
お誘い頂き
ありがとうございます!!
ゴッリ 



左のイラストは
Twitterで投票ご協力いただきました
パロの[お客さんと古書店長]
になります。
投票ありがとうございました！

Master×Robin hood*fanbook#4

2016/05/04

Mattya~han(twi*mameshi_ft)

wvloveandpeace*gmail.com

Printed by POP! S

とある一人の、物語を探しています。



「伝われ 伝われ
けど、それは
きっと無理なんだ」